

編 集 後 記

本号に掲載された原著の沼田論文は、SSI 高危険群における superficial SSI に対する予防的皮下ドレインの有用性を示したものである。従来の報告の多くは開腹手術での予防的皮下ドレインの有効性を証明できなかった。沼田論文では SSI 高危険群を対象を絞って、皮下ドレイン留置群と非留置群の間で SSI 発生率に有意差を示したところが優れている。「RCT 至上主義者」からは後向き研究であると指摘されるかもしれないが、臨床医にとって有益な情報を提供していると思う。忙しい日々の臨床のなかで、診療上の問題点を克服するために行った工夫の成果を、科学論文としてまとめられた著者に敬意を表する。

最近2回、台湾と中国本土の学会で講演する機会があった。韓国、香港も含めて東アジアの諸外国からの臨床研究の発表を聞くと、症例が専門施設に集約されるため各施設の症例数が圧倒的に多く、単施設でも RCT を行うようになり、いわゆるエビデンスレベルの高い研究が増えている。日本でもようやく多施設での prospective study が組まれるようにはなったが、むしろ東アジアの諸外国と比べ立ち遅れている面がある。いずれ臨床研究を行うのならば、より科学的な研究デザインを作成するよう努力工夫すべきであろう。

今後も会員からの熱意にあふれた論文の投稿を期待したい。

(杉山政則)